

小 春 日 和

こ は る び よ り

2013年 第21号

発 行

愛媛県立中央病院

松山市春日町83番地

TEL : 089-947-1111

開院特集号



開院にあたり

愛媛県立中央病院 院長 西 村 誠 明

日頃から愛媛県立中央病院の建替え事業に格別のご理解とご協力を賜り、厚くお礼申しあげます。お陰をもちまして新本院は5月7日にオープンしました。

新しい中央病院も、これまでと同様に「県民の安心の拠り所となる病院であること」という基本理念のもと、良質な医療サービスを提供してまいりたいと考えております。

新病院の特徴は、施設の集約による治療効率化と療養環境の充実です。救急医療の面では、救急診療室や新たに設置した屋上ヘリポートから、手術室や集中治療室への移動をスムーズにしました。また、周産期部門や手術部門の診療機能を充実させることにより、治療の効率化を図りました。療養面では、全病室にトイレを設置し、個室も増設することによって療養生活を快適に過ごしていただけるようになっております。

災害対策として、免震構造を導入するとともに、災害時のライフラインを確保し、災害に強い病院となりました。

今後は、旧病院の解体工事や駐車場等の整備を進めるとともに、新しくレストラン、カフェ、コンビニエンスストアなどをつくり、平成26年12月には全面オープンを迎えることとなります。それまでの間は、皆さまにはご不便やご迷惑をお掛けしますが、引き続き県立中央病院の整備・運営にお力添えをいただきますようお願い申し上げます。

3月23日に開催されました開院式から 知事式辞等をご紹介します。

県立中央病院新本院開院式知事式辞

愛媛県知事 中 村 時 広

本日は土曜日で、診察日の先生方もいらっしゃるなど、大変お忙しい中ではありますが、多数の御来賓の方々にお集まりをいただきまして、県立中央病院新本院の開院式を執り行えますことを、心からうれしく存じます。まずもって、建て替えに当たりまして、関係各位から賜りました、これまでの多大な御尽力に対しまして、深く感謝を申し上げます。



県立中央病院は、昭和49年に三番町からこの地に移転して以来、日夜、医師・看護師をはじめとする医療スタッフの献身的な努力により、「県民医療の最後の砦」として、愛媛県の医療と県民の健康を支えてまいりましたが、建物の老朽化に加え、患者数の増加や求められる診療機能の高度化などにより、物理的にも機能的にも限界に達しておりました。

このため、救命救急センターと総合周産期母子医療センターの本院との一体化による機能の充実や、屋上にヘリポートを整備し災害基幹拠点病院としての機能強化を図るなど、いろいろと検討を行ってきましたが、これは、今日御出席いただいている加戸前知事のもとで、場所の問題や運営方式の問題等々、さまざまな議論を積み重ねて、実施に移されてまいりました。そして先般3月15日に大成建設株式会社から引き渡しを受け、本日の開院式を迎えたところでございます。



さて、建物や設備を一新して開院いたします新県立中央病院の基本理念は、今まで同様「県民の安心の拠り所となる病院であること」にあります。これを実現するため、三つを柱に取り組むこととしております。

その一つ目は、「急性期医療の充実」であります。

当院は、三次救急医療機関として、消防機関や医療機関から送られてくる県内全域の急性期の患者様の治療に、「24時間365日」対応する救命救急センターを有しており、また、周産期医療についても、県内全域を対象とした総合周産期母子医療センターを持っています。今後とも、県内の「急性期医療」の最後の砦としての責務を果たすべく、全力を尽くして参る所存でございます。

二つ目は、「地域医療との連携・支援」であります。

今申し上げました急性期の患者様の治療に円滑に対応するためには、地域の医療機関の方々と緊密に連携することが欠かせません。地域の医療機関をかかりつけ医とされている患者様の症状が悪化した際に、それらの医療機関から患者様を直ちに受け入れる一方、急性期から回復期に移られた患者様を地域の医療機関にスムーズにお返ししていくなど、当院と地域の医療機関の方々との連携を、一層密にしてみたいと思います。

三つ目は、「変化への対応」であります。

全国的に医師不足が言われる中、当院でも、限られたスタッフ数ではありますが、へき地医療拠点病院として、へき地医療の支援にできる限り取り組んでいくこととしております。また、近い将来発生が予想されている東南海・南海地震等の大規模災害に対しましては、当院が県内唯一の災害基幹拠点病院であることから、新病院では災害対応機能を拡充するとともに、今後、災害訓練の実施などを通じまして、院内の備えや関係機関との連携を強化してまいります。



御案内のとおり、新県立中央病院は、PFIという「官と民との連携方式」により運営される病院であり、医療行為と病院経営は県が行いますが、病院の運営・維持管理や調達、利便施設の運営等は、民で構成された愛媛ホスピタルパートナーズ株式会社に委託して行うこととしております。

PFI方式による病院運営の成功事例が少ない中、本事業の成功の要は、県とPFI事業者たる愛媛ホスピタルパートナーズとの緊密な連携にかかっています。その主体を担う大成建設株式会社の山内社長さんには、本業の周辺領域への事業展開の一つとして、本県のPFI事業を戦略的に位置

付けられていると伺っておりますので、どうか本事業に不没転の覚悟で取り組んでいただきますようお願い申し上げます。

新県立中央病院では、今後とも、安全で良質な医療を提供し、名実ともに「県民の安心の拠り所となる病院」を目指して参る所存でございますので、御参集の皆様方には、新病院の円滑な運営に向け、引き続き、御支援と御協力を賜りますよう心からお願い申し上げまして、式辞といたします。

県議会議長祝辞

愛媛県議会議長 竹 田 祥 一

本日、県立中央病院新本院の開院式が行われるに当たり、県議会を代表して、お祝いの言葉を申し上げます。

多くの県民が待ち望んでおりました県立中央病院新本院が完成し、本日、開院式の運びとなりましたことは、誠に喜ばしく、関係者皆様方の御尽力に対し、心から感謝申し上げます。

近年、医療分野において、画像診断や放射線治療の技術革新は目覚ましく、救命救急、周産期母子医療をはじめ、がん、脳卒中、心筋梗塞の3大疾病などの急性期医療のための診療機能の充実は、県民の安全、安心を確保するうえで極めて重要な課題であります。

このような中、この度完成いたしました新本院は、先進医療、高度専門医療の設備の充実に加え、災害時の基幹拠点病院としての機能を備え、更には患者が過ごしやすいアメニティの充実なども図られ、県民の安心の拠り所となる病院として期待されております。

今後は、5月からの新本院での外来診療の開始と併行して3号館の改修や駐車場の拡充などを行い、平成26年末の全面オープンに向け、県民が誇れる医療施設として立派に完成することを楽しみにしております。

県議会といたしましても、県民の医療や各種施設、設備の充実に最善を尽くしてまいり所存でありますので、どうか皆様方におかれましては、今後とも県民の安心の拠り所となる病院を目指し、一層の御尽力をお願い申し上げます。

最後になりましたが、県立中央病院の更なる御発展と御臨席の皆様方の御健勝、御多幸を祈念いたしまして、お喜びの言葉といたします。



県医師会会長祝辞

愛媛県医師会会長 久 野 梧 郎



おはようございます、御紹介いただきました、愛媛県医師会長の久野でございます。

本日は、愛媛県立中央病院の新本院が完成されたということで、大変おめでとうございます。県医師会を代表いたしまして、お喜びを申し上げたいと思います。

人は、私を含めまして、今、健康であっても、常に、いつか、何か病に侵されるのではないかと、そういった心配をしながら生活しているのが常であろうと思います。

そういった中で、県都の中央にあります中央病院が様相も新たにされて、そして機能的にもグレードアップして開院するという事は、県民にとりまして、あるいは社会全体にとりましても、非常な安心感を与えていると私どもは考えます。

今、日本の社会保障は、財政が危機的な状況でありますので、医療においても今後どのように変化するかという事を、我々は非常に心配しているところであります。そういった中で、アメリカ型の医療制度を導入しようとする動きもあるようではありますが、貧富の差によって受けられる医療が変化する、こういったことについては、医療に携わる者として絶対にあってはならないと考えております。現在、安部首相はTPP交渉に参加すべく発言をされましたが、この成り行きによりましては、非常に危惧すべき状況が起こる、そういったことを我々は今、政治をやられる方あるいは国民に向かって、十分に説明しておかなければならない、そういった努力をしているところでございます。

日本医師会は、せめて健康問題というのは、互助の精神、お互いが助け合ってやっていく、そういったシステムで、今後も現在の皆保険制度をきっちりと守っていかなければならない、そういうふうに決意を新たにしているところでございまして、各方面に働きかけをいたしております。

翻って、県内の医療制度、医療の提供体制を考えて見ますと、現在、この県都松山とその周辺に住んでおられる方は、非常に充実した医療提供を受けられる状況にございますが、地方に参りますと、全国でも問題になっております医師不足、偏在の問題がありまして、過疎が進んでいる状況でございます。こういったことを、我々医療人、あるいは愛媛大学、あるいは行政、一体となりまして、できる限りよい医療が提供できるように、今後も考えていかなければいけない、そういうふうに思っております。

先ほどもお話が出ておりましたが、この新本院はPFI方式で運営されると聞いております。PFI方式での病院運営は、高知、あるいは各地でうまくいかなかった。そういった結果もある訳でございますが、ぜひともこの愛媛県から成功の例を全国に示していただきますように、そして県民の医療の中心となって働いていただきますように祈念を申し上げ、お祝いの言葉としたいと思います。

本日はおめでとうございました。

愛媛大学医学部附属病院長祝辞

愛媛大学医学部附属病院長 檜 垣 實 男

本当にすばらしいお天気、桜もいよいよ満開という、まるで神が祝福してくれたかのようなすばらしい日に、愛媛県立中央病院の本院開院式を開催されまして、非常におめでとうございますと申し上げます。それとともに、私はこのすばらしい病院を立ち上げていただいた中村県知事、そして愛媛県の行政など、関係者全ての方々に対しまして、愛媛県の一県民として心からの感謝を申し上げたいと思います。

先ほど中村知事が、「この病院は愛媛の医療の最後の砦だ。」とおっしゃいました。私はこの病院を見て、「砦というより、新しい松山城だな。」と思っていたのでございます。皆様もご存知のように、この松山城は日本中に知



られた名城で、本当に美しく、私たちが誇らしく思えるお城でございます。松山城は、「この伊予の国をしっかり支えて守っていくぞ。」という意志さえも感じさせる城であります。それと同じように、この医療の世界において、県立中央病院のこの新しい建物は、県民を守っていくんだという意志が感じられるからでございます。

今、世の中は医療の崩壊ということで、非常に大変な時代ではございますけれども、医療に関わる皆さんのご努力で、医療再生という道にだんだんと進もうとしています。今日は、私たちのそういった医療再生への第一歩の日であるとも思う訳です。

私は政治のことは分かりませんが、愛媛に生まれて、ここで育ってきた県人の一人として、この愛媛県という、海の資源、陸の資源、そして人材に恵まれた愛媛県は、これからもどんどんどんどん発展していく県だろうと思います。そのための一つの条件としては、医療がしっかりと確立されていなければなりません。県民の皆さんが、死や病というような恐怖から解放されて、毎日幸せに暮らしていけるようなことさえやれば、この県は千年の繁栄を謳歌できる県だろうと思います。その千年の繁栄のための一つのシンボルとして、この県立中央病院が立ち上がりました。今日は、ここに集う私たち全ての人にとっての記念日であると言ってもよいと思います。ここに集う私たち、私の息子たち、孫たち、そして将来愛媛県に住む人々が、「あの時から、愛媛県の医療は再生を始めた。今、私たちの幸せがあるのは、あの日から始まっているのだな。」というふうに心から思えるような、今日は第一日だと思います。そのような素晴らしい病院を建てていただいたことに、私は心から感謝いたします。

私どもの愛媛大学医学部附属病院も、新たな医療人の育成、研究による産業への振興といった、私どもの全ての能力を発揮し、県立中央病院のよき伴侶として、そしてこの愛媛県の医療に携わる全ての人々と協力して、この愛媛県、そして県立中央病院の力をパワーアップさせていただきたいと思っております。

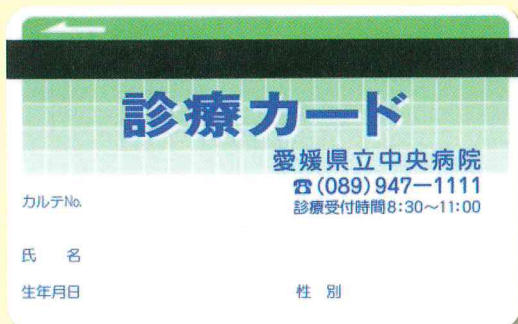
これから様々な出来事があると思います。間近に迫っている南海沖地震、そういったものがあっても、この県立中央病院がしっかりしていれば、そして私たちがこの県立中央病院としっかりスクラムを組んでおれば、愛媛は大丈夫です。

これからもよろしくお願い申し上げますとともに、本日、この県立中央病院ができましたことに、心からの喜びを申し上げます。

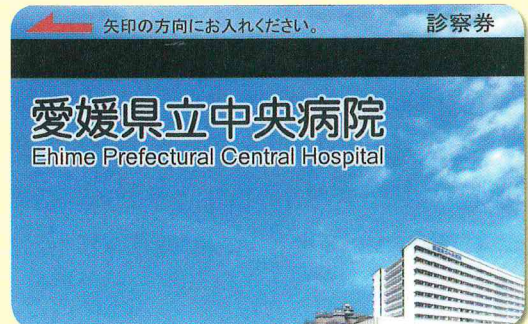
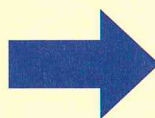
診察券発行のお知らせ

新病院オープンの日から新しい診察券での受付となります。

5月7日から



旧診察券(緑)

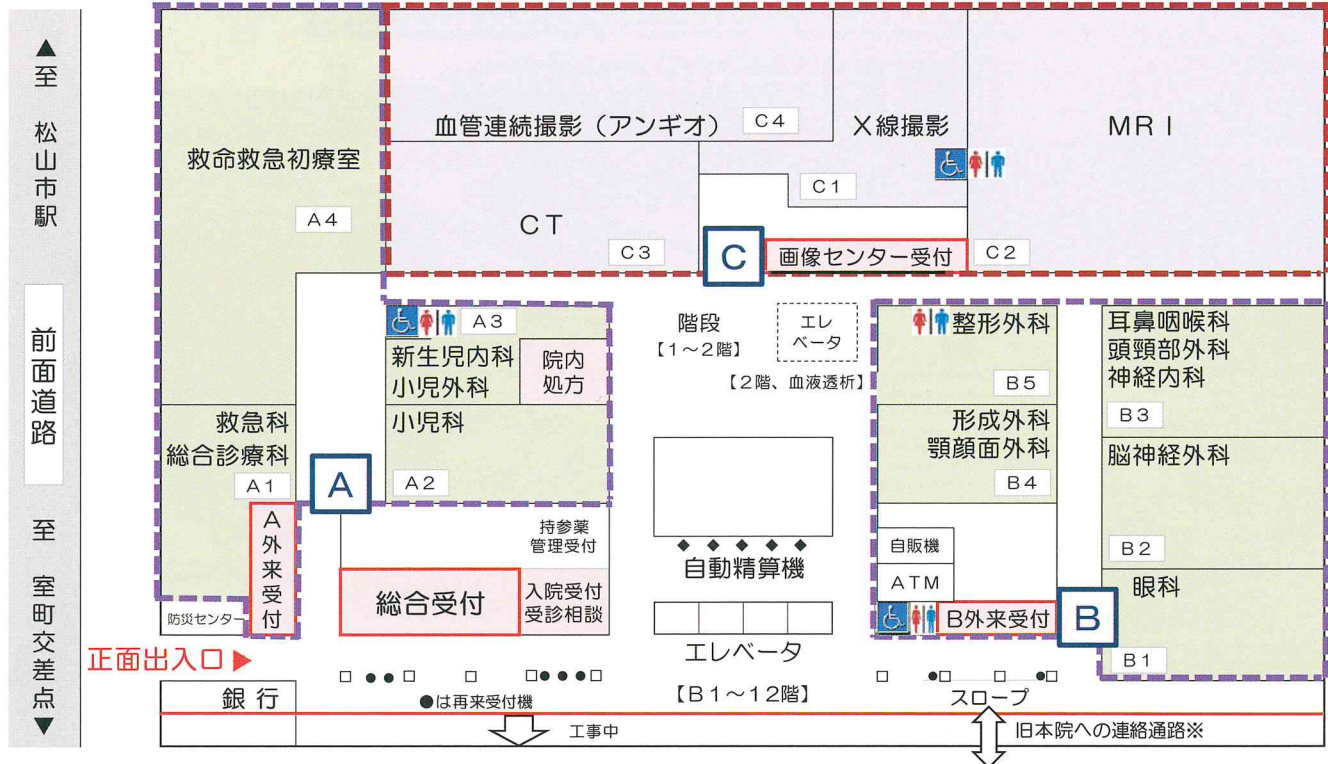


新診察券(青)

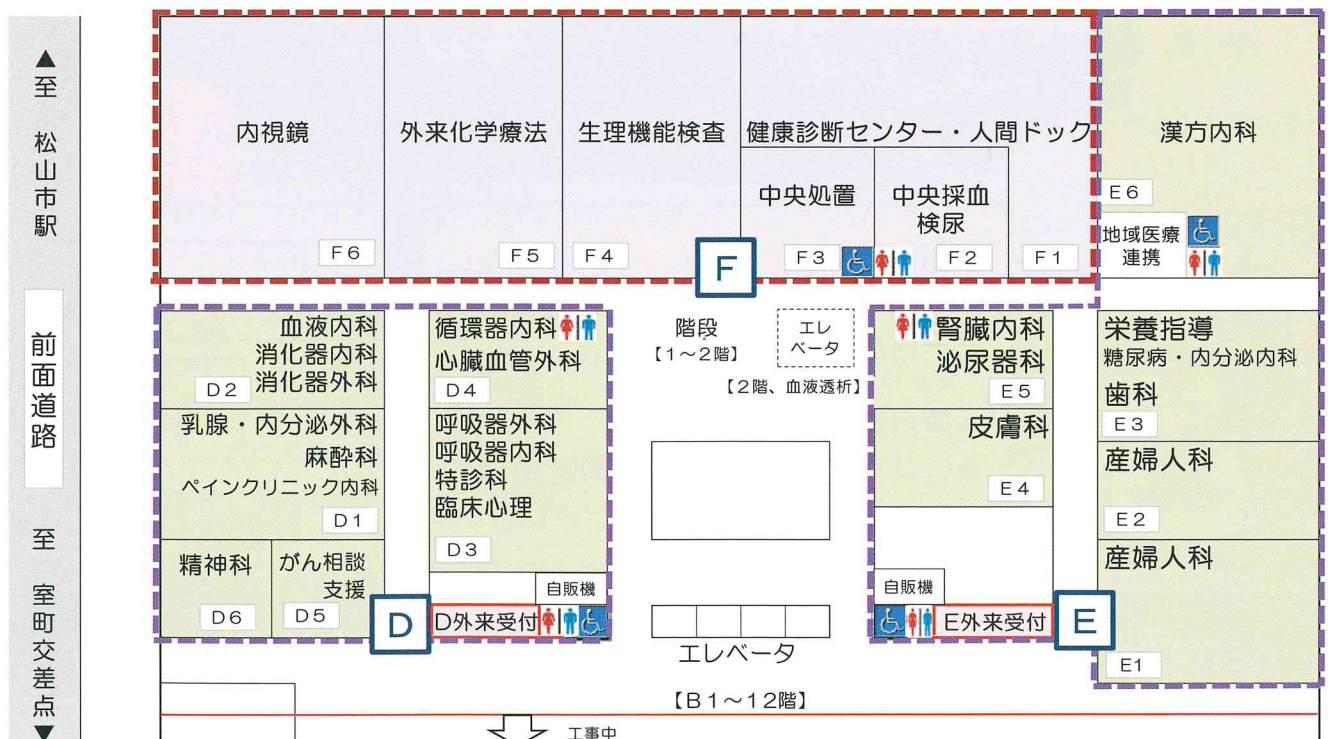
新病院の1・2階フロアの平面図です。

26年12月までの配置です。

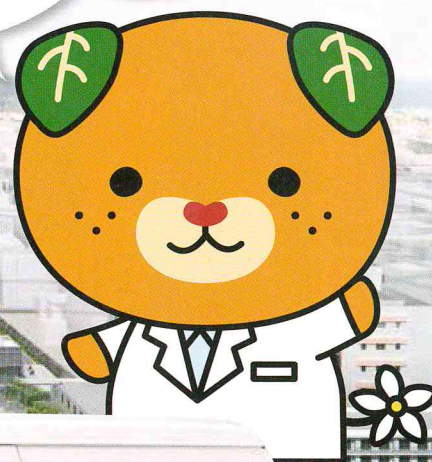
新病院 1 階



新病院 2 階



愛媛県立中央病院では、
平成25年5月7日から
松山市駅～県立中央病院間で
「無料送迎タクシー」
を運行します。



イメージ画像



【運行概要】

- 松山市駅～県立中央病院往復
- 平日の8:30～14:30
※土、日、祝日は運行しておりません。
- 運行間隔は概ね15分
- 公共交通機関や周辺契約駐車場の利用と併せてご活用ください。



愛媛県立中央病院
Ehime Prefectural Central Hospital

TEL089-947-1111(代)